



リシンク この街から、Rethinkして未来を変えていく。



街の課題を、考える。話し合う。

そこに住む方々、そこで働く方々、そしてそれを支える自治体の方々と一緒に。

それは、よりよい明日のために。

Rethinkフォーラムは、地域にゆかりのある方や、テーマにピッタリなゲストをお招きして、
地域社会の課題解決に向けたディスカッションをする場。

ちょっとだけ視点を変えてみることで、違った景色が見えてくるかもしれません。

この先も、この街が魅力的で活気にあふれるように。一緒に、Rethinkしませんか？

リシンク Rethink

視点を变えて考えること。



Rethink
PROJECT

テーマ Rethink 岐阜 ～森林・里山の未来を考えよう～

「Rethink岐阜～森林・里山の未来を考えよう～」（岐阜新聞社主催、Rethink PROJECT協賛）が10月7日、岐阜市内で開催されました。県土の約8割を森林が占める「森林県」である岐阜県では近年、林業の担い手不足や山林の管理放棄、鳥獣被害などの問題が深刻化しています。一方で、森林資源を生かした再生可能エネルギーの活用や、地域循環型社会のモデルづくりといった前向きな取り組みも広がりを見せています。森林・里山の未来像と可能性について、岐阜県知事の江崎禎英さん、活エネルギーアカデミー理事長の山崎昌彦さん、日本たばこ産業（JT）岐阜支社長の斉藤克明さんが話し合いました。



モデレーター

鷺見 進 さん（岐阜新聞社総合編集局長）
1972年岐阜市出身。金沢大学卒。94年岐阜新聞社入社。報道部、ひだ高山総局、デジタル報道部などに所属。2019年に報道本部長。論説委員長、東京支社長を経て、24年12月から現職。

出席者

江崎 禎英 さん（岐阜県知事）
1964年、山県市（旧山県郡美山町）出身。東京大学教養学部国際関係論卒業。通商産業省（現・経済産業省）、岐阜県商工労働部長、内閣府 大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）などを経て2025年岐阜県知事に初当選。

山崎 昌彦 さん（活エネルギーアカデミー理事長）
1955年、高山市出身。三重大学農学部林学科卒。PEC産業教育センター（現PEC協会）代表取締役会長などを経て2014年に活エネルギーアカデミーを設立。16年より高山市と連携して山林に放置された間伐材を地域通貨で取り引きし、森林機能の回復や地域活性化を図る「木の駅プロジェクト」を進める。

斉藤 克明 さん（日本たばこ産業岐阜支社長）
1974年、岐阜市出身。県岐阜商業高卒。93年4月に日本たばこ産業入社。大阪支社大阪第四支店長代理、北陸支社石川第二支店長、岐阜支社西部担当部長などを経て4月から現職。

テーマ01 森林・里山はいま

【鷺見】岐阜の森林・里山の現状や課題について、それぞれの立場からどのように向き合っているのかをお話してください。

【江崎】岐阜は木の国・山の国とつたわれる通り、8割が山です。戦後、将来的な木材需要を見越して多くの植林がされました。しかし、さまざまな事情から計画的に伐採することができず、言わば「植えずぎの、伐きすぎ」の状態となっています。荒れてしまい、マイナス面が強調されています。一方で、山育ちの私からすれば、山に入れば必要なものが全てそろうという印象を持っています。

【山崎】スギ、ヒノキの人工林は過密で、中は真暗、かび臭いのが現状です。とにかく切つて光を当てることが大切です。意外と思われるかもしれませんが、若い人たちは山に関心を持っていて、大学生から体験視察に来たいという要望も多いです。山の仕事は「3K（きつい、汚い、危険）」と悪いイメージで言われてきましたが、悪い言葉を使つてはいけません。森林の価値を学生たちはきちんと感じているということを感じたいです。

【斉藤】私からはJTの環境保全の取り組みについてお伝えします。JTでは全国9カ所で森林保全活動に取り組んでおり、岐阜県ですと2008年から中津川市の軽川地区で活動を行っています。自治体、森林組合などとパートナーシップを組み、従業員はボランティアとして参加しています。27年生のヒノキ林や桑畑跡地、県指定の天然記念物「紅岩」周辺の里山で、間伐や除伐を行い、樹木の生育を促す活動、ヒトツバタゴやコナラなどの広葉樹の保育などを行っています。



JTの森 中津川

テーマ02 未来像と可能性 「つなぐ社会のかたち」

【鷺見】次は未来についての話をしたいのですが、まずは江崎知事、森林資源を地域活性化にどうつなげていくお考えでしょうか。

【江崎】一点目として、森林資源としての木材利用のみならず、森林空間そのものを活用していくことが重要であると考えています。2点目は石炭に代わり、CO₂排出係数実質ゼロの新たなクリーンエネルギー燃料として「バイオエタノール」を普及させていきたいです。これは、木くずや牛ふん堆肥など、あらゆる有機物を原料

料とすることができると画期的なエネルギー燃料です。県内の農山村地域にあふれるこうした資源をエネルギーに転換し、新たな価値を創出できるよう支援していきます。「植えずぎの、伐らずすぎ」、そして、「伐ったものをどうしたら良いか」という問いに対し、資源エネルギー庁も巻き込んで、国策としても取り組めば、カーボンニュートラル達成に向けた福音になるでしょう。

山は半年も放つておくことで茂って入れなくなり、人が山に入つて環境を維持していく必要があります。一番良いものは木材に、それ以外はバイオマスやバイオエタノールにする。そうやって手入れた山に都会の方にも来ていただき、くろいど、過剰にいたなく、二重三重に生かす価値があると考えています。

【鷺見】「伐つたものをどうしたら良いか」という話がでてきましたが、まさに山崎理事長の取り組みですね。



地域通貨「enepo（エネポ）」

【山崎】活エネルギーアカデミーでは、高山市と協働して間伐材の定期トラック便「積まマイカー」を走らせ、参加者が山から搬出した木材を載せて、飛騨高山地域の木製品製作所・木材加工所に運んでいます。その出荷売上を元に、参加者へ地域通貨「enepo（エネポ）」を支払い、およそ100店ほどある地域の加盟店で使うことができます。制限の中での取り組みですが、方言が伝わるくらい小さなコミュニティの中でつなぐことが継続できるといふことを未来に伝えていきたいですね。

【鷺見】キーワードは「小さなコミュニティ」「江崎知事はどう思われますか」。「江崎」小さなころ現場。現場には答えがあります。そして課題の中にも答えがあります。課題を掘り進めていくと、別の課題が見えてくる場合があります。逆に一般論に当てはめようとするがゆえに答えが見えてこないことがあります。

例えば、加茂郡白川町へのふるさと納税が増えています。人気の返礼品は薪で、定期的に送ってもらうこともできます。山育ちの私からすると、薪にお金を出すのかと思いますが、都会の方は調達する場所がないから人気なのでしょう。外との関わりで解が見えてくることもあります。

【鷺見】企業が取り組む中で大切にしている視点は。

【斉藤】その地域の歴史や背景、地元の方の思いをしっかり理解した上で関わることを大切にしています。JTでは全国9カ所一律の活動内容ではなく、森の特徴や課題を踏まえて地元の方と協議し、活動内容を決めています。生態系や地域経済への波及効

果、複数の視点をうまく取り入れていく必要があります。

テーマ03 連携と行動提案 展望 「森林の未来モデル」

【鷺見】共通しているのは、守っていくだけでなく生かしていくという視点ですね。人が関わってこそ、森が生きてくる。そして未来に向けていかに連携していくかが問われています。

【山崎】連携して次世代につなげていくにあたり、山の境目を認識することが第一です。毎年のように地域で活動をしていれば山の境目も伝えていくことができ、確認する中で共通の体験をすることができそうです。そうやってつながれば、お隣さんとも「何かあったら言え」という関係を作ることができそうです。

【江崎】山の境目が分らないのは全国的な問題。私は毎年山に入っていた最後の世代かと思っています。毎年山に入つて、隣との境目の雑木を斜めに切つて目印を付けていました。しかし、1年空けてしまつと境目が分からなくなつてしまいます。県土の8割を占める山のうち、23%ほどしか境目の調査が行われていません。この複雑で困難な所有者不明山林問題については、解決するための新たな制度を国に提案したいと考えています。土地の所有者が分からないと道が作れず、山を生かすための作業ができません。できれば10トントラックが入れるような道を作り、機械を入れて安全に作業を進めていきたいと思います。

【斉藤】企業1社では限界があります。いろんなところと協働して、強みを生かしながら役割分担をしていくべき。自治体や森林組合との連携はもちろんです。JTの森でのイベント時は地元企業も招待して連携を図っています。長期ビジョンを共有し、結果として地域全体としての森林資源としていけたら。企業版ふるさと納税などを活用するの手手だと思えます。

【鷺見】Rethinkの観点から岐阜だからできる森林モデルについてお話しください。

【斉藤】若者が来なくなる仕掛けづくりに寄与できたらグリーンリビングやキャンパスウナ施設の拡充、現在のVRなどの技術も活用して多くの人に関心を持ってもらえればと思います。

【山崎】インターシッピングマネジメントを計画しています。大企業からの引き合いもありそうです。私たちの話ですが、山に携わるようになって空気に癒やされ、足腰が自然と鍛えられ、みんな医者いらずになりました。健康増進のためにもぜひ来てほしいです。

【江崎】課題うんぬんを議論しがちですが、山と関わることは楽しいということが華大。枝打ちをする木が「ありがとう」と言っているように、木漏れ日の中にいるのは贅沢なこと。いくら暑い日でも、木の下に入ればひんやりします。

山崎さんがおっしゃる通りに、山歩きはどんな筋トレよりも全身の筋肉を使います。山頂まで登ると良い景色が見える、空気が全く違う。山とともに生きることがいかに素敵かを感じてもらいたいと思います。